※令和４年度以降入学生用

学校番号	107

令和８年度　音楽科

教科	音楽	科目	演奏研究 （声楽）	単位数	１単位	年次	２年次
使用教科書	高校生の音楽２（教育芸術社）						
副教材等							

１　担当者からのメッセージ（学習方法等）

・この授業は、声楽専攻の生徒を対象に授業を行います。
・教科書と筆記用具、プリントを綴じるためのファイルを必ず持参してください。
・声楽専攻実技や音楽理論、音楽史などで学んだこと結びつけ、将来にプロの音楽家として必要とされる音楽的総合力をさらに深め、身につけます。
　音楽的総合力を身につけるために学ぶこと（２年次）
　① 時代や地域による表現上の特徴や作曲家の表現上の特徴を踏まえて楽曲を分析し、調べたことをプレゼン発表し、演奏曲目についてのプログラムノートを作成します。
　② 声の特徴を踏まえた解釈や歌詞のディクション（ドイツ語）を身につけること＝自分一人で楽譜に書いてある歌詞や記号について解釈して譜読みができるようにします。
　③ 演奏会を企画・実演する力＝演奏会の成り立ちを学び、舞台での所作を身につけ、年度末には、学んだことを発表する場として企画・運営・実践、演奏発表など自分たちで計画した演奏会を実施します。

２　学習の到達目標

音楽作品についての演奏研究を通して、演奏における客観性と多様性を理解し、音楽の様式を尊重して演奏する力を次の通り育成することを目指す。
【知識及び技能】演奏における客観性と多様性について理解を深めるとともに、理解したことを生かした演奏をするために必要な技能を身に付けるようにする。
【思考力、判断力、表現力等】音楽の様式をふまえた演奏に関する思考力、判断力、表現力等を育成する。
【学びに向かう力、人間性等】音楽作品を尊重して演奏したり鑑賞したりする態度を養う。

３　評価の観点及びその趣旨

観点	a:知識・技能	b:思考・判断・表現	c:主体的に学習に取り組む態度
観点の趣旨	・楽曲の表現内容について、曲想、歌詞、音楽の構造などに加え、文化的・歴史的背景との関わりなどについて理解を深めている。【知識】 ・自分の表現意図をもって、創造的に歌唱表現するために必要な技能(曲にふさわしい発声、言葉の発音、身体の使い方などの技能や、表現形態の特徴を生かして歌う技能など)を身に付けて、歌唱で表している。【技能】	歌詞の内容や、言葉の持つ語感について考え、音楽の構造を分析し、フレーズや楽曲全体をどのように歌うか、他の声部との関わり合いをどのように歌うかによって独自の表現意図を持っている。また楽曲の文化的･歴史的背景や様式を踏まえた歌い方などについて考え、音楽性豊かな表現について考え、創意工夫の過程において知識技能を生かし、どのように歌うかについて独自の表現意図を持っている。	様々な時代や様式の音楽、地域やジャンルなどによって異なる多様な音楽について主体的に学習し、自分の声種や声の特徴などを生かした音楽性豊かな表現を追求する過程に関心をもち、主体的・協働的に歌唱の学習活動に取り組もうとしている。

※令和４年度以降入学生用

上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に５段階の評定にまとめます。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

４　学習の活動

学期	単元名	学習内容	単元(題材)の評価規準	評価方法		
				知(a)	思(b)	主(c)
	ドイツ歌曲の歴史とドイツ語ディクション・リートにおけるピアノと歌の関	①　ドイツ歌曲の魅力を探る ・ドイツリートの名曲を知る ・ドイツ語の特徴とその発音 ・ドイツ歌曲の詩とピアノの関係性 ・ドイツ語の詩を朗読する（音楽のフレーズと詩の持つアクセント、イントネーションとの関わり） ②　ドイツ語の作品を知る 歌曲についての研究 ～ドイツ語による作品を多く聴き、マイベスト曲を見つけプレゼンしよう！～ Chromebook を使って、みんなに是非知ってほしい曲についてプレゼンしよう～	a:【知①】曲想と音楽の構造や文化的・歴史的背景などとの関わり及び音楽の多様性について理解を深めている。 【知②】言葉の特性と曲種に応じた発声との関わり及びその関わりによって生み出される表現上の効果について理解を深めている。 【技】創意工夫を生かした歌唱表現をするために必要な曲にふさわしい言葉の発音を身に付けている。 b: 音楽を形づくっている要素や要素同士の関連を知覚し、それらの働きを感受しながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考え、音楽を評価しながらよさや美しさを深く味わって聴いたりしている。 c:主体的・協働的に歌唱の学習活動に取り組もうとしている。	ワークシート プレゼン資料 発音試験 朗読試験 発音試験 朗読試験 演奏聴取	ワークシート 演奏聴取	ワークシート

※令和４年度以降入学生用

	ドイツ語の作品を歌う	③　ドイツ作品を独唱やアンサンブルで演奏する。 ・声楽専攻生とピアノ専攻生でリートデュオを楽しもう。 ・声や音楽をピアノと合わせてみよう。 ・2重唱に挑戦しよう。 （母音と子音、変母音の発語法の実践、イントネーションとフレージング、ピアノとのアンサンブル）	a:【知】楽曲の表現内容について、曲想、歌詞、音楽の構造・歌とピアノパートとの関わりなどに加え、文化的・歴史的背景との関わりなどについて理解を深めている。 【技】自分の表現意図をもって、創造的に歌唱表現するために必要な技能（曲にふさわしい発声、言葉の発音、身体の使い方などの技能や、独唱・リートデュオ・二重唱の特徴を生かした歌唱技能など）を身に付けて、歌唱で表している。 b: 音楽を形づくっている要素や要素同士の関連を知覚し、それらの働きを感受しながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考え、個性豊かに歌唱表現を創意工夫している。 c: 主体的・協働的に歌唱の学習活動に取り組もうとしている。	ワークシート 演奏聴取 演奏聴取	ワークシート 演奏聴取	ワークシート
	ドイツ語の作品をアンサンブル演奏する	◆みんなで演奏会を企画しよう（学習したことの応用実践） ④　実際に演奏会を運営する。 ・ドイツ語の独唱・二重唱を演奏する演奏会の企画を自分たちで企画する。 ・演奏会が成立するために必要な役割を知り、実際に運営する。 ・演奏する曲に関して、プログラムノートとして歴史的背景などをまとめた文章を記載し、プログラムを作成する。 ・演奏会は記録し、まとめとして自らが干渉することで振り返り、客観的に演奏会の企画・演奏の内容について要素別に互いに批評する機会とする。 ・演奏会の振り返りを行う。	a:【知】楽曲の表現内容について、曲想、歌詞、音楽の構造などに加え、文化的・歴史的背景との関わりなどについて理解を深めている。 【技】自分の表現意図をもって、創造的に歌唱表現するために必要な技能（曲にふさわしい発声、言葉の発音、身体の使い方などの技能や、独唱・二重唱の特徴を生かした歌唱技能など）を身に付けて、歌唱で表している。 b: 音楽を形づくっている要素や要素同士の関連を知覚し、それらの働きを感受しながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考え、演奏会全体を考えて個性豊かに歌唱表現を創意工夫している。 c: 主体的・協働的に歌唱の学習活動に取り組もうとしている。	ワークシート 演奏聴取 演奏聴取	ワークシート 演奏聴取	ワークシート 振り返りシート

※　表中の観点について　a:知識・技能　b:思考・判断・表現　c:主体的に学習に取り組む態度